

第29章 地域編⑤：西南地区（重慶市、四川省、貴州省、雲南省、チベット自治区）

1. 西南地区の地域概要

(1) 西南地区の経済的地位

中国の急速な経済成長により、中国における地域間の経済格差が問題視されてきたが、この経済格差を是正することが重要課題だと中国政府は認識しており、2000年より西部大開発という国家プロジェクトが開始した。2014年8月に公布された「西部地区奨励類産業目録」（国家発展及び改革委員会令 2014年第15号）により、西部地区で奨励されている産業が明確化され、最新版は2021年1月にも頒布していた。

西部地区で奨励類の産業に携わる企業に対する企業所得税の取り扱いが明確化された。具体的には、西部で設立し、企業が「西部地域奨励産業目録」で規定されている産業項目を主たる事業とし、かつその主たる事業からの収入額が総収入額の70%以上である企業については、15%の低税率に基づき、企業所得税を納付することができることとなった（国家税務局公告 2015年第14号）。

リーマンショック以降、西南地域の各省・市が全国平均を上回る高い成長率を維持しており、経済の発展が著しい。特に、西部地域のインフラ建設は強化され、高速鉄道や高速道路は整備され延伸されてきている。また、西部地域は「一帯一路」建設に関連した全面的な開放協力を進めている。

課題として、西部地域内において地域間や都市間の経済発展の不均衡が生じてきていることがあげられる。また、西部地域の企業は依然としてイノベーションや科学研究力が脆弱な企業もあり、重要な技術に対する研究開発投資の強化等が必要である。

重慶市は中国4つの直轄市の中で最大の面積があり、海南省等小さい省より面積を上回る。古くから四川省とのつながりが多く、中国建国後直轄市として存在していたが、1954年に再び四川省の一部になり、その後1997年に内陸部開発によって再び直轄市となった。そのため、四川省と産業基盤が被ることが多く、特に中ソ対立の時（1960年代）において、東北地域や沿岸部より四川省に軍事産業等の工場移転が行われ、機械工業、総合化学工業、医薬品、電子機器、電力設備、食品加工、建築資材、ガラス工業、冶金等の産業基盤が強く、現在でも重慶市、四川省は関連産業のサプライヤー企業の技術力が強く、自動車・オートバイ、設備製造、素材産業、天然ガス・石油化学工業、電子情報産業が盛んである。一方、四川省は、48万km²の面積で日本より大きく、高成長省の中でも経済・人口規模が一番大きい。その四川省の四分の一の人口が成都市に集まっており、成都市も中国4番目の2,000万人都市である（その前は北京・上海・重慶となる）。そのため、四川省の主要産業は基本的に成都市に集まっており、経済発展が一極化している。一方、人口が多い大都市である代わりに、成都市は中国の「住みやすい都市ランキング」や「幸福度ランキング」等でトップになることが多く、古くから成都人がゆとりとした生活を大事にしている。そのため、前述した工業産業以外にも、コンテンツ産業等の娯楽関連の三次産業も盛んである。

貴州省は豊富なボーキサイトを埋蔵している。また、従来山が多く、発展が遅れている貴州省は、近年その低い気温と豊かな自然条件がサーバーやデータセンターに適しており、さらに低い地価と電力価格の関係で、中国のファーウェイやテンセントだけでなく、アメリカのアップルでも貴州省にデータセンターを投資している。

雲南省はスズ、亜鉛、鉛、リン等の資源を有している。たばこ、電力、鉱物、バイオ、観光が主産業である。ベトナム・ラオス・ミャンマーと国境を接しているため、東南アジアの窓口として期待されており、インフラ整備が進められている。チベット自治区は高原の上にあるため、ビジネス展開に制限があるが、青蔵鉄道等のインフラ建設のため、近年経済発展が着実に進み、2021年に外資による投資が3,624万米ドルまで昇り、外商投資企業214社である。外商投資企業としては、香港、ネパール、シンガポールの企業が多く、主にレストラン、ホテル、生活サービス等がメインであり、一部再生エネルギーや金属加工業もある。

図表 29-1 西南地区



(2) 西南地区の特色

図表 29-2 西南地区に進出した場合のメリットと留意点

メリット	留意点
<p>【成渝都市圏】 成渝都市圏（重慶、四川省の成都）では、自動車・オートバイ、設備製造、素材産業、天然ガス・石油化学工業、電子情報産業が盛んである。内陸部にしては多くの日系企業が進出している。</p>	<p>内陸部であるため、部材の現地調達が可能でないとコスト高となる。成都と重慶はお互い重要都市であるため、権力上折り合いがつかない場合があり、都市圏計画の進展が遅い。</p>

メリット	留意点
<p>内陸部は部品の現地調達もできるため、国内生産する分には成都で良い。また、付加価値の高い半導体のような軽い製品を EU まで鉄道を使って輸出できることと、ASEAN に距離的に近いことである。 重慶市は反日感情が強い地域と言われることもあるが、実生活において不安となることはほとんどない。</p>	<p>駐在員の生活環境は整っているが、日本人学校がない。</p>
<p>【中日（成都）都市建設・現代サービス業開放協力モデルプロジェクト】 安倍元首相が 2019 年に訪中・対談をした際に、成都市として 8 つの分野（①医療・健康（介護含む）、②生態環境、③文化・教育、④観光、⑤科学技術、⑥物流、⑦金融、⑧都市開発）への日本企業による進出を歓迎すると表明した。現在成都において注目が集まっているのは都市開発であり、特に地下鉄駅の周辺開発が検討されており、日本企業には都市デザインへの期待が寄せられている。</p>	<p>コロナパンデミックにより、現在のところまではあまり進展はない。</p>
<p>【中日（成都）地域発展協力モデル区】 中国全体で成都を含む 6 つの都市が指定され、日本企業と連携するモデルづくりが進んでいる。成都是、映画、アニメ、ゲーム等のコンテンツ関係の企業が集積している都市であり、コンテンツ分野の日本企業を誘致したいという考えがあり、実際進出検討に進んでいる企業がある。</p>	<p>具体的な支援策が案件ごとに限定され、また既に知名度がある対象に向けているため、中小企業がアクセスしにくい。</p>
<p>【雲南省】 雲南省は東南アジアの窓口として現在インフラ整備が進められているため、輸出・輸入の拠点として期待されている。東南アジアの市場開拓戦略の足掛かりとできる。また、「昆明国家経済技術開発区」と「昆明ハイテク技術産業開発区」では積極的に企業誘致を行っている。「雲南嵩明楊林工業園区」では業種により、増値税（地方税分）の減免措置がある場合がある。「瑞麗開発開放試験区」が今後、国際貿易、旅行、金融サービス、加工貿易等の拠点となることが期待される。</p>	<p>国境でのトラブルや内部の少数民族同士の摩擦が懸念される。また、山地が多く、工業用地に向く土地が限られているため、土地不足が懸念されている。</p>

(3) 進出日系企業から見た事業・生活環境やコスト

①インフラ・物流

【道路・鉄道】

2017 年 9 月に開通した成安渝高速道路は、成都と重慶間を最速で結ぶ直通道路であり、成都绕城高速道路（環状線）から出発して 2 時間半後には重慶绕城高速道路に到着できるため、従来と比較すると約 1 時間の時間短縮となる。

成都と重慶から欧州向けの鉄道運輸があり、軽い商品の輸出に利用できるが、ロシア経由のため国際情勢に影響されるリスクがある。一方、昆明ラオス鉄道が建設されたため、ASEAN 向けの輸出がこれから期待できるが、利用数はまだ少ない。成都から昆明まで 5、6 時間かかり、インフラのレベルアップも期待されている。

【空港】

このエリアには、成都双流国際空港、貴陽竜洞堡国際空港、昆明長水国際空港がある。成都双流国際空港は成都市中心部から16kmの距離にある24時間営業の国際空港であり、空港へはリムジンバス、地下鉄がアクセスしているため、交通の利便性は比較的高い。日本から成都までの直行便がある。

【電力】

横断山脈があるため、西南地域の高度差が激しく、水力発電を多く利用されている。四川省は水力発電に依存しており、2022年は猛暑による渇水で電力不足になってしまったため、工業団地では計画停電が起こっていた。雲南省の水力を利用した電力発電や、太陽光発電が盛んである。風力発電やバイオマス発電にも取り組んでいる。

【通信】

都市部は問題ない。また、2022年4月19日には中国全域の県レベル（中国語での「県級」）以上の市の都市部で5Gをカバーしている。

【不動産】

都市部と郊外の価格差が激しいが、成都や重慶等の主要都市でも上海に比較して地価が安い。

【水】

雲南省には自然遺産に登録された「三江併流」地区があり、長江、メコン川、サルウィン川等の大きな川が流れているため、水資源が豊富である。

②労働事情

【人材】

日系企業に対するアンケート（2021年度 海外進出日系企業実態調査 中国編：2022年2月日本貿易振興機構（ジェトロ））で中国における「経営上の課題」として「従業員の質」があげられている。

四川省は同項目が64.0%（全土第1位）となっており、中国平均（40.1%）より高い。

【賃金】

「従業員の賃金上昇」も日系企業に対するアンケート（2021年度 海外進出日系企業実態調査 中国編：2022年2月日本貿易振興機構（ジェトロ））では「経営上の課題」としてあげられている。四川省の回答率が76.0%（第1位）、重慶市は63.6%（第2位）と、中国平均の72.4%（第1位）と比較しても、重要な経営課題となっている。

なお、月額最低賃金は 2023 年 10 月時点でチベット自治区が 2,100 人民元、雲南省昆明市が 1,990 人民元、四川省成都市が 2,100 人民元、重慶市の都市部が 2,100 人民元、貴州省貴陽市が 1,890 人民元である。

③生活環境

【気候】

重慶市の緯度はほぼ奄美大島と同じで、亜熱帯性気候。「中国の三大火鍋」（重慶・武漢・南京）の一つとして有名で、夏は非常に暑く、日中最高気温が 40℃を超える日が続く。冬は日照時間が極端に少なくなるのが特徴で、東京の約半分程の日照時間となる。四川省の成都是年平均が 17℃で、夏場は最高気温 30℃程度で、四川盆地にあるため雨雲が多く、湿度が高い。雲南省省都・昆明は「春城」と呼ばれており、冬でも 10℃前後で、夏でも最高気温 25℃のため、年中春のような感覚を味わえる。

貴州省は多湿亜熱帯気候に属し、年間を通し 1,000～1,300 mmほどの雨が降り、年間平均気温は 15℃である。最も寒いのは 1 月でその頃の平均気温は 5℃で、最も暑い 7 月で 24℃前後と全国平均より低い水準である。一方、山脈が多いが、地震帯から少し離れており、地盤が安定しており、サーバーやデータセンター、又は天文学施設等の建設で近年注目されている。

【教育】

著名大学として、重慶では重慶大学等があり、成都では四川大学、電子科学技術大学、西南財経大学等がある。日本人の学校ではないが補習授業校としては成都補習授業校があり、成都の日本人は外国人向けの学校に通っている。重慶市は外国人向けの幼稚園や学校が限定されており、定員制限等で順番待ちも発生している。

【医療】

重慶市にはいくつかの大規模な総合病院がある（例えば日本語不可だが大病院としては重慶医科大学附属第 1 医院及び第 2 医院）。重慶市の人口あたりの医師数や看護師数はいずれも中国全体の平均を下回っており、医療従事者は相対的に不足している。四川省重慶市で日本語通訳のいるクリニックとしては環境医生重慶診所がある。WellBe というサービス（海外での疾病や事故の対応）に加入している企業の場合は、日本人駐在員にとって現地の病院は通いやすく、日本語が通じるグローバルドクターがおり、通訳も使って診てもらえる。待ち時間の長い病院に行かずに、薬局で処方してもらった薬を飲むだけで治ることもある。

【住居】

重慶市では市内の渝中区や沙坪壩区等に駐在員が多い。例えば、沙坪壩区ではアパート 41 m²、月家賃 1,055 人民元（約 2 万円、1 元=20 円）のものがある。重慶は「山城」と呼ばれており、都心部でも高度差があり、地図上近く見える所でも実際移動時間がかかる場合があるため注意が必要である。

【日本食】

重慶市内では渝中区や渝北区や観音橋付近にもある。

成都市の「大世界」という商業地区に日本料理店が集積しており、日本人駐在員をよく見かけ、日本語が話せるスタッフも働いている。上海と比べると物価は安い。ネットスーパーで食料品や日用品を購入できるため、買い物に不便はない。

【金融】

成都市には三菱 UFJ 銀行が、重慶市には三井住友銀行の支店がある。